

# 第40回里山一斉調査報告

文・写真 常俊容子(NOB 里山委員会)



図-1 川久保一本山寺の風倒被害跡地（高槻・本山寺）

第40回里山一斉調査は、高槻で以前の原盆地から新たに本山寺にルート変更した以外は従来通り14コースを計画。4月2日～4月24日全コース開催、のべ168名(うち、小学生以下13名、中高校生16名)が参加しました。

今年も花曆は早めとの報告が多く、サクラはエドヒガン、ヤマザクラ、カスミザクラからウワミズザクラ、イヌザクラへとリレー、他コバノミツバツツジ、モチツツジなど花盛り。

鳥では山地でオオルリ、キビタキ、センダイムシクイ、ツツドリ、農地周辺ではコシアカツバメ、ヒバリたちが季節の訪れを感じさせます。

ソウシチョウ(特定外来生物)が各地で確認されるようになりましたが、ヤブサメ、コマドリとは負の相関が報告されています。今回池田・五月山では確認が減少したヤブサメに比べ、ソウシチョウは広域で確認されたとのこと。今後の変化に要注目です。

## 土地改変による影響

五月山コースのスタート地点、余野川では大規模な河川工事が完了、コンクリートの三面張りになり、河岸に繁茂していた植物は法面に残るばかりに。

高槻・本山寺では神峯山寺界隈の第二名神工事に伴い出現した緑

地でナルトサワギク(特定外来生物)を初認。手の届く範囲で除去。

大規模な彩都の開発後も改変が進む茨木丘陵・鉢伏山では、ナルトサワギク(特定外来生物)は当初の繁殖エリアでは減少傾向である一方、新たな法面や裸地では繁殖拡大しており、人為の搅乱による侵入が顕著です。在来種との交雑が進むことから特定外来生物に指定されているオオカワヂシャを放棄水田などで確認。

里山100選の枚方・穂谷ではその中心域で基盤となる農地の大改変後8年、小規模な水空間の消失や水路のコンクリート化で、特に両生類の生息空間としての質は大幅に劣化しています。

大阪では貴重な草地性、湿地性環境から生物多様性保全上重要な里地里山に選定されているホットスポット和泉・信太山では木道ができることで植物観察が容易になった一方で、里山自然公園予定地内を貫通する車道の拡幅工事やそれに伴う歩道の付け替えによる植生への影響が危惧され、さらに里山景観の重要要素である水田の減少も進みます。

四條畷・田原の里、堺・鉢ヶ峯では今回、ヤマトサンショウウオの卵塊が確認できていません。



図-2 植生保護柵（能勢町・長谷）



図-3 ユリワサビ（高槻・本山寺）



図-4 カヤネズミの巣（枚方・穂谷）



図-5 水生生物萌高校生たち（枚方・穂谷）



図-6 アライグマ足跡（枚方・穂谷）



図-7 オオカワジシャ  
(特定外来生物、茨木丘陵)

各地で確認されている特定外来生物アライグマは競合する在来の哺乳類へのインパクト他、両生類の補食が懸念されます。泉南・畔の谷ではリス、ノウサギのサインは減少。

#### シカの影響

北摂を初め、橋本・玉川峡でもシカによる採食圧や踏圧による植生への影響は顕著です。

池田・五月山では、ナラ枯れや風倒木でできたギャップがナンキンハゼ群落になるポイントも。ナンキンハゼは「生態系被害防止外来種リスト」(環境省)に掲載されており、鳥散布でよく増える陽樹でシカは食べない、他の高木層構成種の実生は育たないという訳です。今後の遷移に要注目!

能勢町・長谷コース。三草山の北西に棚田100選に認定された長谷の棚田を抱える一帯におよそH500mでクヌギ林、スギ・ヒノキの植林地、

クリ林が小規模なモザイク状にあります。クヌギ林は区域毎に順繰りに伐採(ホダ木、黒炭用として収穫)～萌芽～の様子がよく伺われ、約半世紀前まで現役であった炭窯跡が狭い範囲に複数点在する中、里山委員会が設置後11年経過した植生保護柵内外での林床植生の違いは明らかです。

参加者からは、いつものルートなのに初めて気づいた!自然と人のつながり、歴史が知れた、との声。また興味の対象が様々な生物系クラブの高校生の参加で、リーダーにも様々な発見が。人為によらぬ自然だけでなく、2018年台風の爪痕も残る森林の遷移、土地改変など人為、または放棄の影響、それぞれ毎年同じルートで観察する面白さ、意義を新型コロナウィルス感染症(COVID-19)対応でコースによって中止または縮小した2年を経

て、一層感じていただけたかと思います。

#### ●アライグマについて●

外来生物法に基づく「大阪府アライグマ防除実施計画」第4期(2021.4～2026.3)が策定されています。(大阪市を除く府内市町村)

里山一斉調査のフィールドでも生息が確認され、その生態系への影響が懸念されていますが、実際に実施されているのは家屋への侵入や、農業被害対応としての捕獲が主で、山地や緑地での生態系被害については情報も少なく、当事者が不在ともいえ適切に対応できているとはいえない状況です。保全協会では万博記念公園の哺乳類調査で当初よりアライグマを確認しており、周辺域への生息拡大への足掛かりともなりかねないことから対策を要請、提言しています。

## 第40回里山一斉調査・コース別動植物確認表

哺乳動物	種別												その他		
	シカ	イノシシ	キツネ	タヌキ	イタチ	テン	リム	ノサギ	モグラ	ネズミ類	アライグマ	ヌートリア	ハクビシン	カエビル	
熊類・妙見	◎	◎										◎			マタトシジミ・テングチョウ
眞面・聖天山～オケ原池	◎	◎					◎								ハンミョウ・キタキチョウ
池田・五月山	◎	◎				◎	◎								カワニナ・カゲ
茨木丘陵・鉢伏山												◎			カナヘビ・ニホントカゲ
高岡・本山寺	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				ピロードツリアイブ
四条畷・田原の里山		◎						◎	◎	◎					アカガエル・キタキチョウ
八尾・高安山		◎				◎		◎							モンシロチョウ・キチョウ
羽ヶヶ峯															シュレーゲルアガエル(声)
泉南・畦の谷		◎		◎	◎		◎	◎							アオダイショウ
和泉・信太山				◎	◎			◎	◎	◎					メダカ・ニホンアガエル
枚方・穂谷		◎						◎	◎						ニホンアガエル
東咲野・稻倉林道～小富士山		◎	◎	◎	◎				◎						ピロードツリアイブ
橋本・玉川嶺	◎	◎			◎										シマヘビ・カジカガエル
能勢・長谷	◎	◎			◎			◎	◎	◎					アカハイモリ

※凡例

◎フィールドサイン・鳴き声等で確認、

口聞き取り調査

※コースにより記録のない所がありますが、いないというわけではありません。

### ※凡例

#### ◎花が咲いていた樹木、草本

## 口つぼみ

○花が咲いてなかつた樹木、草本

△他の名前であった樹木、草本

※紙面の関係で、その他の欄に記載出来ない樹木、草本は

\*標準コース:花、鏡、実のあるもののみ掲載。昨年度報告に一部訂正あり。